

近畿地方も梅雨入りしました。

～自然災害に対する備えを大切に！～

6月11日（水）

月曜日に近畿地方も梅雨入りしました。また近年は各地で豪雨災害が発生しました。平成26年の丹波市豪雨災害や西日本豪雨など甚大な被害をもたらした豪雨などは、全国どこでも自然災害が避けられない事実を改めて突き付けました。ニュースでは、「普段災害の少ない所でも最大限の警戒を」と言った注意喚起が行われています。「想定外は想定内」と言った専門家もありました。地方自治体にも、国に準じる計画の策定に努めるよう求めました。具体的には、児童生徒自身に安全を守るための能力を身に付けさせるために、(1) 日常生活における事件・事故、自然災害などの現状、原因および防止方法について理解を深め、現在や将来に直面する安全の課題に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができるようにすること(2) 日常生活の中に潜むさまざまな危険を予測し、自他の安全に配慮して安全な行動を取る



とともに、自ら

危険な環境を改善できるようにすること(3) 自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭および地域社会の安全活動に進んで参加し、貢献できるようにすることなどを求めました。これらは、自分の命を守る「自助」にとどまりません。東日本大震災でも、避難所運営で中高生が積極的に役割を発揮する姿が、各地で見られました。安心で安全な社会づくりに参加し、貢献できる力を身に付ける「共助・公助」の視点も重要です。子どもたちは1日の3分の1以上の時間を学校で生活していますが、残りの時間は家庭が中心となります。丹波市豪雨災害も西日本豪雨災害も夜中の時間帯に大きな被害が出ました。家庭でも災害に対する備えなどについて話し合う機会を設けて欲しいと思います。



また本日は『人権 happiness』（丹波市地域人権教育事業）の開級式が行われました。青垣中学校では、人権について考え、主体的に活動する自主組織の伝統が続いています。この青垣中学校の伝統を生かし、人権について考える自主的な組織をつくろうと結成されたのが『人権 happiness』です。2005年、丹波市では、「いのちと人権を大切にする心を育てる」ことを中心にした「生き方を育む校区事業」が始まりました。青垣中学校のすべての生徒を対象として、人権について考え、学ぶ自主的な組織を作ることとなりました。この組織が『人権 happiness』です。今年度は、30名が運営委員として参加してくれます。現地学習会（京都市）や丹波市人権交流集会（ライフピア市島）に参加し人権について学びます。『人権 happiness』で自主的に人権について学習し、身近な差別を許さず、考えて行動できる活動に全校生徒でしっかり取り組んでいきましょう。



○人権ハピネス開校式の様子

